

およそ 230 年前 江戸は田沼意次の時代から続く刀匠一門が大牟田に！！



ここ数年、名刀を男性に擬人化したオンラインゲーム「刀剣乱舞」をきっかけに、各地の刀剣展に「刀剣女子」と呼ばれる女性達が押し寄せるほどの刀剣ブームが到来しているようですが、ここ大牟田に 200 年以上も続く刀匠の一門が居ることを知っていますか。しかも、5 人もの刀匠を有するという全国でも稀な一門なのです。

今回は、倉永に鍛刀場を開いてる 株式会社四郎國光の刀匠、安光、國光、國天の御三方にお話を伺いました。

大変な歴史で、途切れなく引き継がれていますが・・・

現在のところでは、江戸期天明 6 年（1786）には既に刀鍛冶として創業していたことは判っているのですが、名前が判明しているのは文化年間（1804～1818）の武藤平七からです。二代目・久広は、柳川藩お抱えの刀鍛冶して活躍しました。明治になり、久広の長女シエが小宮家に嫁ぎます。その六男・小宮四郎が四代目を継ぎ、長男國光を生むのですが、國光は幼くして亡くなってしまいます。そこで四郎は、長男を偲んで小宮四郎國光と名乗るようになったのです。これが初代の小宮四郎國光です。

実は、ここ三池の地には、平安時代後期に活躍し、天下五剣の名物で前田利家重宝の国宝「大典太光世」や、重要文化財で家康の愛刀「ソハヤノツルクウツスナリ」を作った「三池典太光世」というすばらしい刀匠がいました。彼が作った刀の切れ味は、太閤秀吉も驚いたといひます。四郎はこの「三池典太光世」にあこがれて、大正 3 年、柳川から三池に転居したようです。

三池典太の作刀を理想として掲げた刀鍛冶が、小宮家「現四郎國光」なのです。

昭和 14 年に開催された刀の切れ味や美しさを競う『全国刀試し切り大会』では、当時日本一と評された名刀『虎徹（こてつ）』と共に決勝に進んだ先代 四郎國光の刀は見事優勝し、切れ味日本一の称号を手に入れました。



刀匠の世界とは？



現在国内に 300～350 人の刀鍛冶の資格を持った者が居ます。この資格を取得するには、刀匠の下で 5 年以上修行した後、刀匠と登録審査委員 2 名以上の推薦を受け、文化庁が主催する研修会で実際に作刀をして審査を受けなければなりません。また、資格が取れたからといって終わりではありません。刀の作り方は、鋼のわずかな成分の違い、その日の温度、湿度などの環境変化によっても微妙に変わります。刀匠の世界では「炭切り 3 年、向こう槌 5 年、鍛え一生」と言う言葉があるように、一生修行が続くのです。

ここ四郎國光では、技術の継承のため、年に 30 振りほど作っています。刀は我々が作る刀身の他に、各専門の職人が作る柄、ノバキ、鏝などの拵え（外装）と相まってその魅力を増す事になります。



最近の取り組み

今年、戦後GHQに接収され、赤錆だらけとなっていた柳川生まれの「鬼塚吉国」の修復プロジェクト（たーんとよかとこ協議会主催）が始まり、当社も修復に協力しています。31 年 2 月には三池カルタ・資料館で展示予定ですので、ぜひご覧ください。

また、現 四郎國光は、日本美術刀剣保存協会が毎年開催する「新作刀展」で、29 年に同協会会長賞、30 年には、高松宮記念賞につづく薫山賞を受賞しました。



薫山賞を受賞した四郎國光作の刀

今後の抱負

昨今の刀ブームで、イベントを開催すると北海道や沖縄など、全国から来場者が訪れます。大変うれしいことですが、ブームに終わることなく、伝統ある世界に誇れる日本刀の魅力を発信していくために、刀の鍛錬にまい進していきたいと思っております。同時に大牟田の発展のために寄与していきたいと思ひます。

会社概要

(株)四郎國光

住所：福岡県大牟田市大字

倉永 105-1

TEL：0944-58-1340

